

大崎高校

図書館だより



3月号

開館時間 全日制8:35~16:50 定時制17:00~21:50

2024年3月発行

出会いと別れの季節です。

図書館はいつも通り、皆様のご来館をお待ちしております。

『リラの花咲くけものみち』藤岡陽子（光文社）

動物に心を支えられ、獣医師になることを決めた少女と「生きること」とは何かを描く小説。

『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』

川内有緒（集英社インターナショナル）

目が見えない白鳥さんとの美術館探訪ノンフィクション！自分を見つめ直すことができる1冊。

『魔女の宅急便』角野栄子（福音館）

ひとり立ちした13歳の魔女キキは、コリコの町で「魔女の宅急便」という仕事を始めました。みんなに愛され続ける少女の成長物語。

「弥生も末の七日」

今月の展示

出会いと別れが交錯するこの季節。切ない中にも前向きな気持ちを感じさせてくれる本たちをご紹介します。

その他
展示の
ご案内

●入り口横→4月～「読書入門 新書&入門書特集」

まずはこの1冊！読書初心者におすすめの本を集めました。

●館内→

「本屋大賞 20周年記念」

歴代の本屋大賞受賞作を展示しています。今年度ノミネート作品もあります。

「特別展示 「アイヌ」を知る」

漫画『ゴールデンカムイ』でも注目されたアイヌ文化を知ることができる本を展示しています。

春休み貸出のお知らせ

春休み貸出の返却日は

4/8（月） 始業式の日 です。

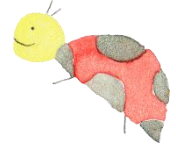
忘れずに返却しましょう。

リクエストについて

新規リクエストは5月以降のお届けになります。2月、3月、4月は新着図書のご購入がありませんのでご注意ください。



図書館のおすすめ本



913.6-7 『同志少女よ、敵を撃て』逢坂 冬馬 (早川書房)

独ソ戦が激化する 1942 年、少女セラフィマの暮らすモスクワ近郊の農村は、突如ドイツ兵に襲われた。母や村人が目の前で惨殺され、呆然自失のセラフィマに、助けてくれたロシア赤軍の女性兵士・イリーナは問う。「戦いたい、死にたいか」と――。セラフィマは、イリーナが教官を務める訓練学校で、一流の狙撃兵となるべく、過酷な訓練に耐える。いつか、復讐を遂げるために……。

2022 年 2 月。「本屋大賞」受賞の連絡が著者に入ったその日、ロシアのウクライナ侵攻が始まった。セラフィマの物語は、自分には関係のない遠い国、遠い過去のものではない。物語の力は、登場人物たちの思いを、息遣いを、すぐ隣にいるように感じさせてくれる。

ちなみに、図書館の本には「大崎高校」あての著者直筆サインも入っています！（講演会でもらってきました！）（Y）



019-1 『「若者の読書離れ」というウソ』飯田 一史 (平凡社)

「若者が本を読まなくて困る」なんて言葉、しばしば耳にします。学校図書館で働く私にとっても、若者の読書傾向は関心が高いトピックです。この本では近年の読書調査などから、中高生にどのような本が好まれ、読まれているのかを分析しています。この本のポイントは、調査結果を前向きにとらえていること。若者が本を読まないなんて、大人の偏見じゃない？そんな問いから本書は始まっています。ザ・高校生のみなさんは、この本を読んで「うんうんワカル～」と言ってくれるでしょうか…とても気になります。指導にあられる先生方にもおすすめの 1 冊です。（H）



914.6-2 『まにまに』西 加奈子 (KADOKAWA)

皆さんの出身地はどこでしょうか？わたしは生まれも育ちも関東ですが、派遣社員をしたある会社では、座席の左右と後が大阪の人で、なにを話すにもオチをつけるよう教育？を受けました。身に付いたかは別として、『大阪』との遭遇は懐かしい思い出です。

この本は、当時のやりとりを思い出させます。西加奈子のエッセイ集です。小林製菓のネーミングセンスについての「潔く」しかり、妄想で遊ぶ「BR 譬え」しかり、しかしほろりとくる「命さへあれば」もあり、笑えて泣けて、腑に落ちる本です。（S）



全日制

ビブリオバトルが開催されました

👑チャンプ本👑

2024年3月14日 5・6時間目



『経験 -この10年くらいのこと-』上田晋也(ポプラ社)

Congratulation !

✿参加賞✿

「パレートの誤算」柚月裕子(祥伝社)

「流浪の月」風良ゆう(東京創元社)

「死神の精度」伊坂幸太郎(文藝春秋)

皆さん、ご参加ありがとうございました！
どのバトルも素晴らしい発表でした。
来年度も実施を予定していますので、
ぜひご参加ください。
紹介された本は図書館入口に展示中です。